

JHF REPORT



ハンググライディングクラス1世界選手権より。板垣直樹選手、いざテイクオフ。撮影:北野正浩

2013年度JHF事業方針と予算

JHFが公益社団法人となって3年目の年度がスタート。新年度事業計画の策定にあたって、事業方針と予算を決定しました。より安全に楽しく自由な飛行を続けていくため、また飛行の仲間や理解者を増やしていくため、会員の皆様のご協力をお願いします。

事業方針

JHFフライヤー会員の有効登録者数が9千人を下回っています。この愛好

者数が1万人以上に回復することを目指します。同時に、高齢者ほど人口比率が高い逆ピラミッド構造から、若年層の比率を上げる施策を検討し、年齢分布を逆転させる努力をします。

事故が相変わらず発生しており、事故撲滅をめざして昨年度に引き続き、病気などの潜在的身体リスクや高齢化リスクに重点を置いた、安全啓蒙活動をしていきます。また、パラグライダーにおける緊急事態に対処する訓練方法

の研究を進めます。

今年度は2年ごとの世界選手権開催年であり、日本代表チームの活躍を期待し、援助応援します。

予算

2013年度予算の収入と支出の内訳を次ページのとおりグラフにしました。会員の皆様の会費が、JHFのどのような活動に活かされていくのか、ご覧ください。



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

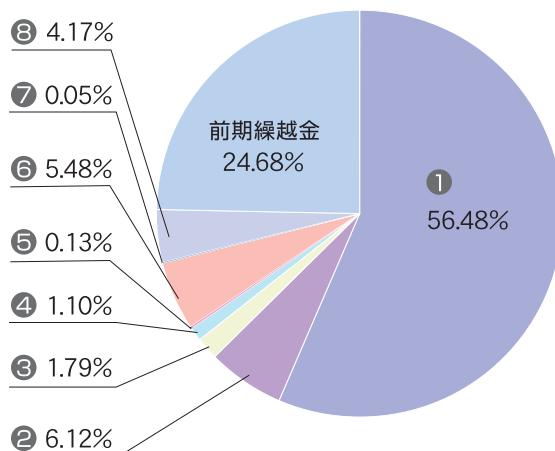
JHFレポートも新しい顔で

おかげさまでJHFレポートは201号になりました。ご協力くださった多くの方々に感謝申し上げます。2013年度のスタートに合わせ、タイトルデザインを一新。今後も会員の皆様に有用な情報を届けていきます。

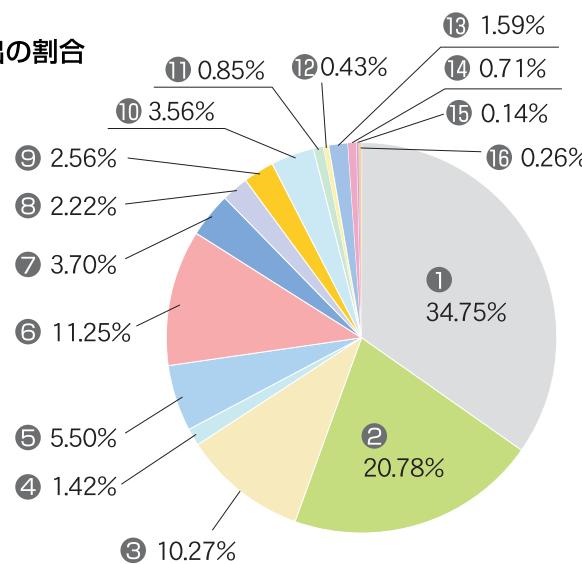
収入 (単位:円)	
①会費等	43,315,000
②技能証の発行に基づく収入	4,697,000
③競技に関する収入	1,370,000
④教本等の頒布に伴う収入	840,000
⑤検定会参加費	100,000
⑥補助金	4,200,000
⑦機体登録費	40,000
⑧その他	3,200,000
前期繰越金	18,928,173
合計	76,690,173

支出 (単位:円)	
①会員サービスのために	24,400,000
②JHFの維持運営のために	14,590,000
③都道府県連盟の補助のために	7,210,000
④公益事業の推進のために	1,000,000
⑤世界選手権、アジア選手権や 検定会のための積立	3,860,000
⑥広報・普及活動のために	7,900,000
⑦日本選手権や国体デモスポのために	2,600,000
⑧競技のために	1,560,000
⑨よりよい教習環境のために	1,800,000
⑩委員会活動のために	2,500,000
⑪補助動力のために	600,000
⑫学生の補助のために	300,000
⑬事故調査や安全のために	1,114,000
⑭海外との交流のために	500,000
⑮制度のために	100,000
⑯総会のために	180,000
合計	70,214,000

収入の割合



支出の割合



委員会の活動計画

JHFのさまざまな事業の原動力である各委員会は、2013年度、下記の活動を計画しています。

□安全性委員会

- ・事故情報の収集と管理
- ・事故調査報告
- ・ハンググライダーの機体整備票の運用詳細の策定
- ・JHFウェブサイトから入るブログ形式のハンググライダーの安全管理情報の公開運用
- ・機体登録制度の推進
- ・DHVなどヨーロッパのスカイスポーツ専門機関の調査・連絡

□教員・スクール事業委員会

- ・教員・助教員更新講習会の開催及び支援
- ・SIVトレーニングの開催とトレーナー新資格についての検討
- ・イントラマニュアルの検討
- ・レスキューパラシュートリパック認定証

学科問題の見直し(安全性委員会と合同)

- ・安全セミナープログラムの作成(安全性委員会と合同)
- ・スクール、エリア管理者の相互連絡網の立ち上げ
- ・ハンググライディング教本の改訂
- ・平成25年度教員検定員研修会の検討

□ハンググライディング競技委員会

- ・ルールブックの改定
- ・ウェブ登録による大会へのエントリーの簡素化
- ・クラス1日本選手権の開催(予定:池田山)
- ・クラス5日本選手権の開催(予定:茨城)
- ・HGシリーズとクロスカントリーリーグの活性化と支援
- ・HGシリーズとクロスカントリーリーグの管理運営
- ・委員会ホームページの管理運営

□パラグライディング競技委員会

- ・ルールブックの改定
- ・ウェブ事務局／ホームページ管理
- ・Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
- ・J2リーグの活性化・支援
- ・PG日本選手権の開催(開催地・時期未定)
- ・PGアキュラシー日本選手権の開催(開催地時期未定)
- ・PG世界選手権(ブルガリア)選手団派遣(7月13日～26日)
- ・PGアキュラシー世界選手権(ボスニアヘルツェゴビナ)選手団派遣(8月18日～25日)
- ・委員会ホームページの充実(タイムリーな大会結果のアップ)

□制度委員会

- ・JHFに関わる制度の定款、規約、規程、規則等の文書管理
- ・公益認定に関わる制度の見直し
- ・理事会諮問事項の対応

- ・ハンググライディング教本作成に伴う技能証規程の改定
- ・パラ補助動力、MPG教本（副読本）作成に伴う技能証規程の改定
- ・トーイング技能証規程の研究
- ・国際技能記章規定の見直し
- ・レスキューパラシュートリパック認定証規程の改定

□補助動力委員会

- ・MPGの事故報告などの連絡通報体制の強化
- ・MPGの騒音や苦情の対応
- ・フライヤー会員登録の推進
- ・MPG補助動力委員会ウェブサイトの充実
- ・MPG補助動力教本（副読本）の作成・DVD化
- ・MPGの教員検定の推進
- ・MPG補助動力に関する講習会の開催

□ハングパラ振興委員会

- ・展示会へ配布物、写真、映像等の提供と活用
- ・ウェブ更新
- ・体験会マニュアル作成
- ・「HG普及委員会」との連携
- ・展示会等イベントの検討

2013年JHF通常総会を開催

2013年のJHF通常総会を6月19日（水）11時から17時まで、昨年と同じく東京体育館（東京都渋谷区千駄ヶ谷1-17-1）第1会議室で開催します。

傍聴については、後日JHFウェブサイトでご案内します。傍聴をご希望の方は、ウェブをご確認のうえ、JHF事務局にお申し込みください。インターネットを利用できない方はJHF事務局までお問い合わせください。
TEL.03-5834-2889

JHF役員に立候補を！

今年はJHF役員選任（選挙）の年です。4月1日に選任についての公示をしました。日程、立候補の届け出など詳細は、所属の都道府県連盟にお尋ねください。また、JHFウェブサイトでご覧いただけます。

空の仲間のため、仲間を増やすために頑張りたいという方、ぜひ次期理事・監事に立候補してください。立候補締切は5月1日です。

被災地復興の応援を継続

JHFは、東日本大震災被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」を2011年春から展開してきました。全国の皆さんから寄せられた義援金は、2013年3月31日時点で合計87件2,998,746円になりました。皆さんのご協力に感謝します。

復興とひとくちにいっても、被災地の方々が普通の暮らしを取り戻すには、長い時間と莫大な費用がかかります。今後も義援金を募っていきますので、さらに多くの方にご協力いただければ幸いです。なお昨年11月以降にお寄せいただいた75,755円は「あしなが育英会」に託しました。

□義援金振込み先

三菱東京UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

コウエキシャダンホウジンニホンハングパラグライディングレンメイ

役員の任期満了に伴う改選について

JHF役員選任実行委員会

JHF役員の任期は、定款第27条により「選任されてから2年目の定時総会の終結の時まで」と定められており、本年6月19日の定時総会において、現役役員の任期満了に伴う改選が行われます。

前号でもお知らせましたが、本年の役員選任は2012年6月定時総会で承認された新しいJHF役員選任規約に基づいて、下記のスケジュールにて行われます。

役員としてJHFの運営を積極的に担っていただける方を広く募ります。ハンググライディング・パラグライディングの未来のために、空の仲間のために活動したいという方、ぜひ立候補をお願いします。

スケジュール

- 役員選任公示日（立候補受付開始）
4月1日（月）午前10時
- 立候補締切日

立候補の資格

立候補届出時に有効なJHFフライヤー登録者で、かつ住民票所在地の都道府県連盟（JHF正会員）に所属し推薦を受けた方なら誰でもJHF役員に立候補する資格があります。

*公益認定前の定款には第13条3項で「この法人の事業に関する営利を目的とする企業の役員であってはならない」とありましたが、この条項が無くなりました。

役員定数と選任方法

役員の定数は、理事6名以上9名以下、監事1名以上2名以下です。

選任のための役員立候補者の募集活動や選任事務は役員選任実行委員会が実行し、総会当日に正会員の投票により選任決議を行います。

開票後、過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として議決されますが、「理事のうちいずれか1名とその親族その他特別の関係ある者の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない」「公益法人を除くこの法人以外の団体の理事又は使用人、その他これに準ずる相互に密接な関係にある理事の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない」という条項に抵触する場合、該当立候補者の中から得票上位者を役員とします。

役員立候補に必要な書類等、詳細はJHFウェブサイトでご確認ください。
<http://jhf.hangpara.or.jp>
お問い合わせはJHF事務局まで。

2013年CIVL総会から

例年どおり国際航空連盟(FAI)の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会(CIVL:フランス語で『自由飛行委員会』の略)の総会と小委員会が2月に開催されました。

日本を代表するデレゲート(委員)としてJHFが推薦した岡芳樹さんが、日本航空協会より派遣され、スイスでの総会と小委員会に出席しました。以下は岡さんからの報告です。

日程:小委員会 2月14日・15日

総会 16日・17日

会場:ローザンヌ(スイス)

小委員会 MSI

総会 モーヴェンピックホテル

参加国:34ヶ国(委任状7ヶ国含む)

議決事項

各種目共通

1.選手権開催地の立候補

選手権の立候補は、総会の4ヶ月前にCIVL会長に提出されなければならない。(現在は、60日前となっているが、早めに提出することで、疑問点や問題点を総会で確認するのではなく、それ以前に理事会、担当小委員会で確認して、その結果を総会で確認することが可能になる。)

ハンググライディング(HG)関連

1.ヘルメット

ヘルメットに関して、EN966より優れたスタンダードがあれば、それも認めることが承認された。

パラグライディング(PG)関連

1.カテゴリー1大会参加機

2015年1月1日以前は、FAIカテゴリー1大会に参加できるのは、EN認証登録された機体に限ることとする。また、2013年5月1日以降、カテゴリー1大会に参加する機体は、その大会の90日以前に認証登録されていなければならぬ。

2015年1月1日以降、カテゴリー1大会に参加できる機体は、CIVL-ENコンペクラスおよびEN認証機(ただしCIVL-ENに対する要求事項を満たすものに限る)に限ることとする。また、2015年1月1日以降、カテゴリー1大会に参加する機体は、その大会の90日前に市販されていなければならない。

*CIVL-ENコンペクラス

- a) EN961-1に則る、静荷重およびショック荷重試験、さらにライン強度要求事項を満たすこと。
- b) EN961-2EN-Dに則るフライト試験(最大飛行重量のみ)をテスト機関のパイロットが行う。ただし、パイロットはマヌーバー開始後1秒後に操作を行う。また、パイロットはコンペ仕様(ボッド)のハーネスを使用して試験する。
- c) 最大速度は65km/hとする。
- d) アスペクト比は7.0以下とする。
- e) 要求事項と数値は2年ごとに見直すものとする。

2.カテゴリー1大会の高度ボーナス

2014年1月1日以降のカテゴリー1大会においてESS(タスクでのスピード計測

のフィニッシュ)に高度ボーナスを与えるものとする。高度ボーナスは、1mにつき0.45秒を規準とするが、ローカルルールで他の値を決定することも可。安全上あるいは技術上の問題がある場合は、高度ボーナスを無しとする也可。

3.レスキュー装備

「2014年5月1日以降にカテゴリー1大会に参加する選手は、2個のレスキュー・パラシュートを持たなければならぬ」との理事会決定は、左右どちらの手でも引き出せるタイプであれば1個でもOKとなった。(いずれの場合でも、スピン、スパイ럴といったシビアコンディションで引き出せるものが前提である。)

また、自動開傘システムの研究用として2,000ユーロの予算措置を手当てる。

4.機体写真送付の要求事項の削除

カテゴリー1大会への参加1ヶ月前に、使用するグライダーにサインしてその写真を送る要求事項は削除された。

5.ライブトラッキングの強制

ライブトラッキングは、2014年5月1日以降のPGカテゴリー1およびカテゴリー1のテスト大会において強制となる。

PGアキュラシー関連

1.記録として認めるラウンド数

記録として、FAI公認大会における連続ゼロcmのラウンド数および連続5cm以下のラウンド数が承認された。記録として認める最小ラウンド数は理事会が近々決定する。

2.ジャッジセミナー

2013年にもジャッジセミナーを開催する。場所は、ベトナム・フィリピン、インドネシア・タイ、ポルトガル。予算として4,000ユーロを手当てる。

2015年選手権の承認

1.世界選手権開催の決定

PG世界選手権:

コロンビア、ロルダニヨ

1月10日～25日

PGアキュラシー世界選手権:

インドネシア、プンチャック

8月9日～17日

HGクラス1世界選手権:

メキシコ、バイエドブラヴォ

2月28日～3月13日



総会で投票する各国デレゲート。

2.アクロ世界選手権ほか

下記の選手権立候補の意向が表明され、理事会に決定をゆだねた。

□2015年HG／PGアクロバティック世界選手権:フランス、アネシー

□2014年HGクラス1ヨーロッパ選手権:スペイン、アランゴワティ・ランビエール

表彰関連

□FAIゴールドメダル:

Bill Moyes(オーストラリア)

ただし対立候補が立った場合、翌年に延ばす。

□HGディプロマ:無し

□ペペ・ロペスメダル:

Conrad Loten(ニュージーランド)

その他

1.John Aldridgeが名誉会長に選任された。

2.2013年に、FAI 5種目における10人に対してOOC(大会外での)ドーピングチェックが行われる。

3.FAIはブライトリングとのスポンサー契約を取り交わした。

4.FAIスポーツティングライセンスのデータベースが完成し、使用可能となった。

5.これまでFAIは、地球のモデルとし

て、半径6,371kmの球体としていたが、今後はWGS84の楕円体とすることを決定した。これにより、球体としていたFSプログラムはWGS84に変更する必要がある。

6.理事の理事会出席等にかかる費用を、CIVLから支出することが承認された。

7.カテゴリー1選手権の大陸としてアジア・オセアニアを新たに追加することが承認され、CASI(全スカイスポーツの一般的ルールを決める委員会)に送られる。CASIが承認すれば、アジア・オセアニア選手権の開催が可能となる。

8.現在FSで使用されているGAPシステムを、HG用とPG用の2つに分けることが承認された。それぞれの使用形態により即した形となる。

9.CIVL内規が改定され、理事の任期がこれまでの1年から2年となった。

選挙

□委員長:

Agust Gudmundsson(アイスランド)

□副委員長:

Zeliko Ovuka(セルビア)

Igor Erzen(スロベニア)

Stephan Malbos(フランス)

Goran Dimiskovski(マケドニア)

□事務局:

Jamie Sheldon(アメリカ)

□財務:

Hamish Barker(オーストラリア)

□小委員会委員長

・HG小委員会:

Oyvind Elefsen(ノルウェー)

・PG小委員会:

Stephan Malbos(フランス)

・PGアクチュラシーカ委員会:

Violeta Masteikeine(リトアニア)

・アクロ小委員会:

Claudio Cataneo(イス)

Dennis Pagen(アメリカ)

なお、これまでの記録・バッジ小委員会、安全性小委員会、スポーツティングコード小委員会は、小委員会ではなく中心となる人間を理事会が決定することとなった。

次回総会

2014年総会開催の立候補がインドネシアからなされ、大差で承認された。開催場所はパリに決定。日程は未定だが、例年通り2月の予定。



FAI 及び 日本航空協会 — 共通の使命
普及振興—融合—養成
スポーツ競技の奨励

Fédération Aéronautique Internationale

Maison du Sport International
Av. de Rhodanie 54
CH-1007 - Lausanne
Switzerland
Telephone : +41 21 345 1070
Fax : +41 21 345 1077

FAIについて…

約2,000,000	各国の組織を通じて、FAIに加盟しているスポーツ人口
約14,000	樹立された世界記録
約10,000	国際競技会に参加する競技人口
1905	FAIの創設された年
約1,000	活躍しているボランティア
100	世界中の加盟組織
約20	毎年実施される世界選手権
10	FAIが統括している航空スポーツの種類
6	ローザンヌ(スイス)にあるFAI本部の職員数
1	共通理念: 飛行への情熱

Web : <http://www.fai.org>



春の事故

桜前線が北上し雪深い地方にも緑が顔を出す季節となりました。冬期はクローズしていたエリアも雪解けを迎える、しばらく活動していなかったフライヤーも空に戻る頃でしょう。フライトへの期待もふくらむ春ですが、これまで重大事故

が多く発生しています。いま一度「安全」に対する意識を確認して、フライトに臨んでください。

十二分な安全マージンを確保

記録飛行や競技の大フライトをはじ

めソアリング条件の高さで注目される春のコンディションは、安全面では最も注意すべき不安定な条件でもあります。強くて荒れ気味のソアリングコンディションでも、しっかりととした安全マージンを必ず確保してください。

また、穏やかな安定した飛行条件であっても、不安定で危険なものに急変する可能性があります。常に最新の気象情報をチェックして、急変の可能性がないかと、警戒を怠らないことが春は特に大切です。

安全マージンが確保できないときや可能性が低くても万が一の高い危険性を感じたときは、飛行の中止あるいは地上であっても屋外での練習を早めに中止する決断を行う勇気をもってください。

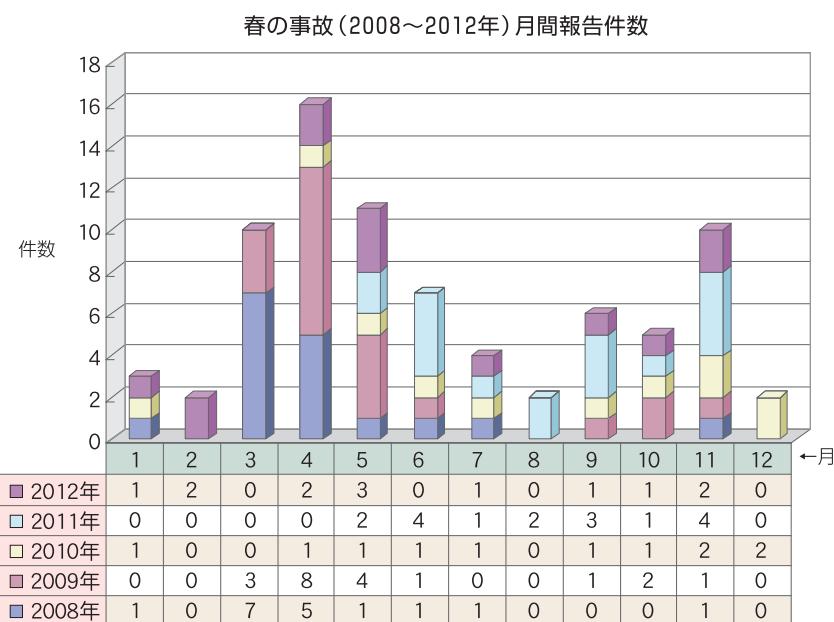
小さなミスも重大事故につながる

春になり、冬眠していて久々のパイロットというパイロットがチェックと肩慣らしの準備練習を行うことはもちろん大切であり必須ですが、季節の変わり目は、一年中飛んでいるパイロットにとって、コンディションの変化によって大小のミスが生じやすい時期です。春はパワフルなコンディションが重大な結果に直結するということもあります、スカイスポーツでは小さなミスであっても重大事故に至る可能性があることを忘れないでください。

安全性にかかる能力の向上を

以前に比べれば機材の性能が向上し、ソアリングの能力が高くなりました。安全に関する性能も向上していますが、重大事故はそれほど減っていません。これはひとつには、パイロットに関して安全性にかかる能力を向上させる余地がまだまだあるからだと思われます。つまり、パイロットが離着陸技術を磨きもっと適正な判断を常に行えば、事故はずっと減らすことができるのです。

ハンググライダーやパラグライダーでのフライトは魅力的で素晴らしいのですが、「今まで大丈夫だった」「飛んでも何とかなるだろう」ではなく、自らのそして仲間の大好きな安全を確保するために、真摯に更なる研鑽とより厳しく慎重な判断を心がけるようお願いします。



機種別事故件数:

機種	合計	死亡	重症
PG	8	4	4
HG	4	2	2
MPG	1	1	
合計	13	7	6

事故発生の際の「一次発生事象」:

機種	潰れ	急旋回	フラットスピン	失速	脱落	樹木構造物	アンコンントロール	その他	不明
PG	2	2	1		1		1	1	
HG				1	1	1			
MPG									1
合計	2	2	1	1	2	1	1	1	1

事故発生の際の「二次発生事象」:

機種	ダイブ	フラットスピン	落下	宙づり	クラッシュ	その他	不明
PG	1	1	3		2	1	
HG	1		1	1			
MPG							1
合計	2	1	4	1	2	1	1

事故者の年齢:

PG 8件のうち7件が40歳代以上のパイロット
HG 4件のうち3件が50歳代以上
MPG 60歳代

事故当日の風の状況

JHF安全性委員会で管理している「事故報告書」のデータによりますと、例年、季節の変わり目から事故件数も増え始めます。2008～2012年の報告書データから、月ごとの報告件数をグラフにしたものをご覧ください。

3～5月の報告件数が顕著に増えています。最下部が2008年、最上部が2012年の件数を表しています。

報告書に記載されている事故当日の「風の状況」を見てみました。

2008年

3月の7件のうち、3件での風の状態が「やや荒れ気味」で、死亡事故1件（直前行動：離陸）を招いています。4月の5件のうち1件および5月の1件が「やや荒れ気味」でした。

2009年

3月3件のうち2件はモーターパラグライダーによる溺死事故です。4月の8件のうち7件が「急変・強風」または「やや荒れ気味」で、その2件（電波塔衝突と潰れ）が死亡事故です。

2010年

5月の1件が「やや荒れ気味」。

2011年

5月2件のうち1件の風は「安定」でしたが「潰れ」がきっかけの死亡事故。

2012年

4月2件（潰れと落下）、ともに死亡事故で、1件は「やや荒れ気味」。5月の3件のうち2件は「穏か」でも「着陸進入」と「離陸」でのミスと思われる死亡事故。

2012年の事故について

2012年一年間の事故報告書件数は13件でした。2011年の報告件数より減少していますが、2010年の11件からは増加しています。機種別の事故件数、事故のきっかけとなったと思われる一次発生事象と二次発生事象は前ページの表のとおりです。

安全性委員会では、各地から寄せられた「事故報告書」のデータを事故再発防止啓蒙と安全対策のための活動の一環として、集積したデータから「事故報告書事故概要」を作成し、会員の皆様向けにJHFウェブサイトの安全性委員会のページで公表しています。安全で楽しいフライトを続けるために参考にしてください。

県連だより

国体デモスポーツ競技にアキュラシー 東京都ハング・パラグライディング連盟より

第68回国民体育大会のデモスポーツ競技として、下記のとおりパラグライディングアキュラシー大会が行われます。皆様のご参加、ご観戦をお待ちしています。

開催日:2013年9月7日(土)

予備日8日(日)

場所:東京都大田区区民広場

(多摩川六郷河川敷)

参加人数:50名

参加費:5,000円

参加資格:NP技能証以上、

トeingングフライトの経験者

申し込み期間:5月1日より6月30日まで

申し込み方法:WEB申し込み:東京都ハング・パラグライディング連盟のホームページへアクセスのこと

<http://www.sentencha.com/~tokyohpf/>

サービスエリアでパラグライダー

静岡県フライヤー連盟より

新東名静岡SA(サービスエリア)は、静岡市の中山間地エリアを対象とした、スポーツ・エコツーリズムの拠点づくりを目指しています。

さらに、近接のダイラボウライトエリアとの連携で、静岡SAを日本で唯一「パラグライダーのできるサービスエリア」と位置づけ、全国からパラグライダー・ハンググライダーのフライヤーを集めただけでなく、初心者でも「空を翔ぶ体験ができる」サービスエリアを目指しています。

そのための第一歩として、静岡SA近接地でパラグライダーおよびハンググライダーのふわっと体験教室を開催します。興味をお持ちの方に声をかけてください。1日でパラ・ハング両方を体験することも可能です。

開催日時:4月27日(土)から

5月6日(月)までの10日間

午前9時から午後4時頃まで

集合場所:新東名静岡SA 下り線

参加人数:1日150名程度

参加費:パラグライダーふわっと体験

1,000円

ハンググライダーふわっと体験

(トeing方式) 1,000円

参加資格:3歳以上どなたでも

お問い合わせ先:静岡SAスカイスポーツ実行委員会 事務局 株式会社インブル TEL.054-272-6375

(写真はふわっと体験パンフレットより)







より緻密により大胆により遠くへ!

2012年度JHFクロスカントリーリーグ

JHFでは、競技会のリーグ戦だけではなくクロスカントリー(XC)リーグも行っています。2012年も12月31までのフライトで年間チャンピオンが決まりました。あなたもクロスカントリーパイロット技能証を取ったら、XCリーグに参加しませんか。

パラグライディングXCリーグ

2012年度のクロスカントリーリーグには26名のエントリーがあり、90本のフライトが申請されました。100km超のフライトも3年ぶりに申請され、それも8本という近年にないクロカンの当たり年でした。しかも、これまでクロカンと言えば足尾エリアからと相場が決まっていましたが、2012年は岡山県の北房エリアからも5本のフライトが申請され、その内の3本が100km超で、西のクロカンメッカとして、北房エリアがクローズアップされてきました。今後の記録が期待されます。

これから梅雨に入る前がクロカンシーズン真っただ中となります。我々のスポーツの醍醐味はクロカンフライトである

のは間違いありませんが、クロカンに出る際には、必ず複数名でバディシステムを組み、万が一のアクシデントに備え、また、航空法を遵守し、一般市民にできるだけ迷惑をかけないように心がけて楽しめることをお願いしたい。

[PG競技委員長 岡芳樹]

■2012年リーグ

1位 竹内 俊二	合計 387.8km
2位 加藤 豪	合計 366.9km
3位 中里 勝	合計 291.2km
最長飛距離	

武貞 伸明 128.6km



■100km超を2本も
1位 竹内俊二

2012年は久々の好条件に恵まれ、100kmオーバーを2本も飛べたことはたいへん嬉しく思っています。

一番印象に残っているのが初めてフ

ライトした岡山県北房エリアで、素晴らしい仲間の協力の甲斐あって124kmの記録が出せました。このエリアのポテンシャルは凄く、今後楽しみなエリアのひとつだと思います。

最近、足尾以外のエリアでもクロカンの情報をよく耳にします。いろんなエリアで安全にクロカンが盛り上がり楽しですね! 特に中国地方にあるエリアが「熱い」のでは……

クロカンリーグは登録も無料なのでXCパイロットなら誰でもエントリーできるのが魅力ですよ。

※最後に本音を言えば、2012年クロカンリーグは、岩屋の加藤豪さんと張り合ったかっただけかもしれません。



■128km達成
最長飛距離 武貞伸明
2012年3月14日
ティクオフ岡山県北房エリア 飛距離128.6km

ある日、ショップ(ロールアウト)のクロカン地図に中国地方が継ぎ足されたの



クロスカントリーの西の拠点として注目される北房エリア。撮影:加藤文博

が始まりだった。加藤豪さんが「播但自動車道を越えれば100kmですよ」と言っていたのを思い出す。

滝野社インターにロールアウトメンバー+NASAの名人と集合。「最低ここまで飛んで来る」を合言葉に北房に向かう。エリアの方に那岐山は北風が強いとアドバイスを受け、11時前にテイクオフ。荒れ気味のサーマルを乗り継ぎ那岐山を目指す。那岐山では+10のサーマルと格闘。ほとんどグライダーしか見ていない。心が折れたので1800mでグライド開始。中国道沿いに東に進む。山崎からはコンバージェンスに乗って2000mオーバーで福崎まで飛んだ。ついに100km超え！ 強い海風が入り始め、どんどん高度を落す。笠形山の麓でサーマルヒット！1300m。いつもの岩屋のクロカンルートを逆に進む。北の空がオーバーキャストしている。糀屋ダムの穏やかなラストサーマル。午後4時半頃、山南町にランディング。本当に飛んで来れるとは思ってなかった128kmでした。

ハンンググライディングXCリーグ

ハンンググライディングの楽しさ、醍醐味のひとつにフリーディスタンスのクロスカントリーフライトがある。

クロスカントリーフライトはリーグ記録の213.7km（2005年、氏家良彦選手）を超えるフライトを目指すものから、数十キロの自己記録を狙うものまでそれぞれです。

たとえ数十キロでも、そこには普段飛びなれたフライトエリアから離れ、追い風に乗ってどこまでも飛んでいく楽しさ、冒険心にも似た心の高鳴りがあります。

一見、無謀なだけに思えるかもしれませんのが、クロスカントリーフライトを行うパイロットには飛行技術だけでなく、しっかりと飛行計画を立て、気象条件を読む緻密さと臨機応変に対応する大胆さなどを持ち合わせる総合力が要求されます。

水田の多い日本では、クロスカントリーフライトが行える条件は地形的にも季節的にも限られてきます。クロスカントリーパイロットの皆さんは、条件の良い春の風に乗ってそれぞれの記録に向かって挑戦してはいかがでしょうか。

XCリーグに参加するには事前の登録は必要ありません。フライト後に申請用紙と第三者の署名とGPSログを提出



クロスカントリーには助け合って進む楽しみもある。撮影：松田保子（イタリア モンテクッコにて）

するだけです。年間を通してランキングを付け1位から3位までの表彰とメダルの授与を行っています。

XCリーグに参加経験のない皆さんもクロスカントリーフライトを行ったら気軽に記録の提出をお願いします。

【HG競技委員長 板垣直樹】

■2012年リーグ

1位 太田 昇吾 144.6km

2012年5月20日

ティクオフ茨城県足尾山エリア

ランディング福島県大玉村

■仲間とともに

1位 太田昇吾

1位になったフライトは、関東・東北地方の田植えが既に終わった5月20日のフライトです。

今回の記録は一人で飛んで出したのではなく、チームフライトのお陰で出た

記録です。たまたま一番距離を飛んでいたのが自分だったので申請をしましたが、石坂繁人選手、田中元気選手と一緒に受賞したと思っています。ほとんど降ろす場所がない、鏡のような大地を突き進む時に、一緒に飛ぶ仲間がいることがとても心強く、3人だから飛び続けられたと思います。最終的に繁人は郡山から西にコースを取って猪苗代湖畔に降りました。新たなコースを開拓したと言えると思います。

また、今まで経験したことがないような好条件の中でフライトできたことは、本当に幸運だったと思います。

クロカンというと一人で飛ぶものと思われがちですが、お互いに助け合って進んで行く楽しみもあるし、それによって良い記録が出ることもあると思います。去年テキサスでダステインとジョニーが出した世界記録（※）の時もまさにそうだったのでは？と思います。あんなフライトしたら、もっともっと気持ちが良いに違いないですよね！

でも、まずは自己記録の更新から。

危険も伴うクロカンフライト、無理せず楽しく安全なフライトを心掛けたいですね。

※2012年7月3日、米国テキサス州での記録。ダステイン・マーティン（米）が764km飛行、そしてジョニー・デュラン（豪）759km。2人は全行程の70%ともにフライトしたという。



ともに飛んだ仲間と太田昇吾（右端）、回収車の前で。

復活!マンフレット・ルーマーが4度目の優勝。

第19回FAIハンググライディングクラス1世界選手権

報告:チームリーダー 北野正浩

2013年1月5日から18日まで、オーストラリアのフォーブスで開催された今大会には、23ヶ国から104人の選手が出場した。各国の出場枠は6人+女子2人で、日本からは男子6人と女子1人が出場した。

大会期間中の気温は連日40℃を超えて、最も暑い日では48℃に達した。極度に乾燥しており、朝洗濯した服を30分後には着ることができるほどだった。

11日間の競技で10本のタスクが成立了。大会前半はサーマル高度が低く、対地高度が1,500m程度しか取れない日もあったが、タスク距離は最小で127km、最大で248kmと容赦なかった。200kmを超えるタスクが当たり前のように設定され、それでも多数の選手がゴールした。競技の規模とスピードは進化を続けていることを実感した。

オーストラリア内陸部のフォーブスに高い山はなく、ハンググライダーのトeing専用に作られた小型飛行機「ドラゴンフライ」に曳航されて離陸する。600mまで引き上げ、切り離した後は自力で上昇風を探して空中スタート地点に移動し、タスクの開始時刻を待つ。

今回、特に重要なのは、集団で動くことだった。以前のフォーブスの大会では、独自のコースを進んだ選手が集団を出し抜く、ということも可能だったようだが、今回この戦法は全く通用しなかったようである。集団で飛ぶことによって、サーマル発見確率を高め、グライド速度も上げることができる。そしてファイナルグライドの駆引きで勝負を決める。多少低くても集団についていくことが肝心で、脱落してしまうとサーマル発見確率も下がり、速度も上がらない、そして時間切れでゴールに到達できない、

という場面がたびたび見られた。

10日間の厳しい競技を終えて、優勝したのはオーストラリアのマンフレット・ルーマー。伝説の3連覇から長いブランクを経て、実に4度目のクラス1優勝を決めた。

団体優勝はイタリア。優勝を狙える選手を複数擁するだけでなく、経験豊富なチームリーダーと競技を熟知したアシスタントがおり、衛星電話を使ったトラッキングシステムも用意するなど、充実したサポート体制が強さの秘密だろう。

日本代表は前半こそまずまず好調ではあったものの、後半には疲労が蓄積して、力を發揮できなかった。それでも、初日の野尻の女子1位や、後半まで総合10位台を維持した鈴木由路、タスク4で900点を獲得した太田昇吾らの活躍も見られた。



トeingによって離陸。高度600mまで曳航。

大会中、沢山の方に応援のメッセージをいただいたが、競技の過密日程と、インターネット接続環境の貧弱さから、お応えすることができなかった。この場を借りてお礼申し上げたい。



初日に女子1位の好成績を挙げた野尻選手。

[総合]	
1位 マンフレット・ルーマー	64位 氏家良彦
(オーストリア)	81位 砂間隆司
2位 アレッサンドロ・プロナー	85位 外村仁克
(イタリア)	87位 野尻知里
3位 フィリッポ・オッピチ	[団体]
(イタリア)	1位 イタリア
32位 鈴木由路	2位 米国
53位 太田昇吾	3位 英国
58位 板垣直樹	11位 日本



ドーリーに乗りテイクオフの順番を待つ選手達。

[団体]	
1位 イタリア	
2位 米国	
3位 英国	
11位 日本	



日本チーム。男女混合編成は初めて。

JHF総合保障制度2013年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備えてスタートしたJHF総合保障制度の今年度募集が始まりました。以下は東京海上日動からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

東日本大震災から2年が経ちました。被災された地域の皆様、そのご家族、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、復興に向けご尽力されている関係の皆様方に敬意を表すとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

『JHF総合保障制度』とは

任意でご加入いただくフライヤーの為の傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事中も補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるおケガも対象となります。ご注意いただきたいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

2013年度募集がスタートします

今年度で8年目を迎える本保障制度は、2013年3月1日現在830名の会

員の皆様にご加入いただいております。

まずは、引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくおケガなくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。

◇2013年度制度改定内容

今年度はここ数年の事故増加に伴う損害率の上昇に伴い、団体割引が10%から5%に削減されました。保険料は据え置きで変更はございませんが、補償内容が前年度から変更となっております。必ず、パンフレット等でプラン毎の補償内容をご確認お願い致します。

◇JHF総合保障制度の特徴

- ・国内外を問わず、パラグライダー（含むモーター・パラグライダー）

搭乗中はもとより、お仕事中や日常生活中的おケガ、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。

- ・地震、噴火またはこれらによる津波での傷害についても補償対象となります。（この場合は救援者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意下さい）

- ・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◇現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を4月上旬に郵送させていただきます。大切なお知らせですので、書類到着後、必ず内容のご確認をお願い致します。

その上で、以下ご対応をお願い致します。

■プランに変更あり

期日までに訂正の上ご返送ください。

■プランに変更なし

自動継続となります。ご返送不要です。

■ご解約

必ずご返送ください。

◇新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、同封のパンフレット等をよくお読みいただきお申込みください。

※締切厳守…5月10日(金)必着

【保険に関するお問合せ先】

東京海上日動火災保険代理店

(株)東海日動パートナーズ・ノースワン
〒170-0013

東京都豊島区東池袋1-35-3

池袋センタービル10階

Tel 03-3907-4622

空を飛ぶことの楽しさを伝え仲間を増やしていく。

日本学生フライヤー連盟 2013年度活動計画

2013年度理事長 安田瑛紀(東工大SYLPH)

フライヤーの皆様、はじめまして。この度、日本学生フライヤー連盟(JSFF)の2013年度理事長に就任しました安田瑛紀です。ホームエリアは茨城県足尾山で、東京工業大学ハング・パラグライディングサークルSYLPHに所属し、学業の合間にぬって日々練習に励んでおります。全国の学生フライヤーを代表し、この場をお借りして活動の報告と今年度の抱負について述べさせていただきます。

JSFFの活動

私たちJSFFは、北は東北から南は九州まで、全国の様々なエリアで活動する学生フライヤーで構成される組織で、2013年現在、加盟員は300名を超えます。連盟としての主な活動はJHF公認の学生大会やその他イベントの企画・運営ですが、これはあくまで手段であり、私たちの活動目的はエリア間での交流を通して学生フライヤーの繋がりを広げること、そして新規フライヤー獲得の窓口として空を飛ぶことの楽しさを伝

え仲間を増やしていくことにあります。

加盟員は普段はそれぞれのホームエリアで活動していますが、年に数回開催される学生大会には、全国から多くの学生フライヤーが参加します。技術向上の目標と共に、久しぶりに他エリアの仲間に会う数少ない機会ですので、どの加盟員も大会を心待ちにしています。

このようなエリア間での活動を通して全国規模でフライヤーのネットワークを広げていくことが我々の目標です。この繋がりは卒業してからも強く、元加盟員の中には現役フライヤーとして全国で活躍している先輩方が多数います。

そしてもう一つ重要な目標が、空を飛ぶ楽しさを後輩たちに伝え、多くの仲間をつくることです。大学在学中は、時間や経済的に多少の余裕と自由が生じる期間であり、また身体的にも若くスカイスポーツを始めるには最も適しているのではないかと思います。皆様の中にも学生時代にハング・パラを始めたという方は多いのではないでしょうか。

私たちは将来のフライヤー人口増加に貢献できるよう、そして何より「スカイスポーツの楽しさを知らないなんてもったいない!」ということを伝えるために、毎年4月の新人歓迎では、他サークルよりも一層メンバー獲得に力を入れています。

今年度の計画

2013年度、JSFFは以下の大会、イベント運営を企画しています。

※()内は開催エリア

HG大会

8月 NASAS(茨城県足尾)

10月 HG新人戦(滋賀県荒神)

2月 HG学生選手権(和歌山県龍門)

PG大会

8月 尾神SC(新潟県尾神)

10月 PG新人戦(山形県十分一)

2月 PG学生選手権(茨城県足尾)

HG&PG共通大会、その他イベント

9月 砂丘合宿(鳥取県砂丘)

10月 ピンクカップ(山形県十分一)



2012年砂丘合宿。広い場所での充実した練習に満足。

もし皆様のホームエリアで開催される大会がありましたら、ぜひ遊びにいらしてください。また、10月に開催される草大会のピンクカップは社会人の方でも参加できますので、こちらもお気軽に参加していただけたら幸いです。熟練フライヤーの方々の技術を勉強させていただきたいと思います。

日程など詳細は未定ですが、決まり次第ホームページに記載しますので、参照していただけたらと思います。

ホームページ <http://jsff.org/>

昨年度の反省と今後の目標

今後、JSFFでは更なるフライヤーの獲得と、加盟員の技術向上に努めていきたいと思います。の中でも、昨年度の活動を踏まえた上で、今年度は特に初級フライヤーが気軽に大会に参加できる環境づくりを目標したいと思います。

JSFFでは毎年JHFから活動の助成金をいただいているのですが、昨年度は大会のB級生が参加するクラスのエントリー料金を一部補助するのに使わせていただきました。大会に初めて参加する層に集中して補助することにより大会参加のハードルを下げ、我々の活動の中でも最も魅力的な大会の楽しさを伝えることで、フライヤーとして根付い

てもらうためのことでした。これはかなり効果的だったので、大会参加者は前年度より大幅に増加しました。

今年度は引き続きこのエントリー補助を続けると共に、各地区の学生に自由な発想の下で何らかのイベントを企画してもらい、その運営費の一部補助という形で補助金を使わせていただこうと思っています。

このような、より目に見える形でもJHFからの助成金を使わせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。また、我々の活動を支援してくださるJHFの方々に、学生を代表してこの場で改めて感謝したいと思います。

学生と社会人のパイプ役として

最後に私個人の抱負としまして、理事長として学生と他のフライヤーの方々のパイプ役としてこの1年間頑張っていきたいと思います。私の仲間は魅力的に熱意あふれる学生フライヤーばかりです。先日開かれたJSFF総会では、前年度の反省と今年度の計画について、2日間計15時間以上にわたり白熱した議論が繰り広げられました。仲間がより楽しく飛べる環境づくりのために、新たな仲間にフライトの楽しさをつたえるためにと、とても自由な発想の下、たくさんの意見が飛び交いました。

このような仲間に恵まれたことを嬉しく思うと共に、私は彼らの代表として恥ずかしくないよう外部への広報に努め、また他のフライヤーの方々の声を学生側に反映させていきたいと思います。そのため、もし皆様の中で学生側へ何かしてほしいこと、その他ご意見、ご要望等ございましたら是非私にお声をかけていただけたらと思います。皆様には今後とも学生連盟へのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



2012年砂丘合宿。砂上を思い切り走り感覚をつかむ。



パラグライディング学生選手権の参加者たち。

JHFからのお知らせ

■デジタル簡易無線機の利用について

JHFは、ハンググライディングやパラグライディングで使用する無線機として、上空および陸上利用に割り当てられた351MHz帯を使用するデジタル簡易無線機の使用を推奨しています。

この種類の無線機は、電波法施行規則による簡易無線局のデジタル化お

よび登録制度の導入に基づき使われているものです。使用に際しては登録手続きと開設届けのみが必要で、免許・資格は不要です。

デジタルなのでクリアな音質で聞き取りやすく、5チャンネル、送信出力1W、防塵・防水性を備えています。最近発表された新型（VXD450S）で



は、緊急アラーム機能やGPS位置情報取得に対応できる機能もあります（近日発売される予定のGPSマイク使用の場合）。

JHF事務局では、販売代理店のご厚意により借用している5台とJHF所有の10台、計15台を用意して、会員の皆様への貸し出しを受け付けています。

貸し出しをご希望の方は、JHFウェブサイトの「登録申請・各種用紙」にある「デジタル無線機貸出依頼書」をダウンロードして必要事項を記入のうえ、JHF事務局宛にお送りください。

■PG教本基礎技術DVD頒布中

197号でお知らせした基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」を頒布しています。

このDVDには、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範

演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したもののが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができます。リアライザーコントロールでの引きしろとブレーキコードでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

【収録されている実技】

1. 旋回 45度、90度、180度（教本32、64、65頁）

2. ピッチング（63、93頁）

3. ローリング（63、93頁）

4. リアライザーコントロール（94頁）

5. 両翼端折り（94、112頁）

6. フィギュアエイト（108頁）

7. 片翼潰し（111頁）

8. スパイ럴（126頁）

9. Aストール・Bストール（126頁）

【価格・入手方法】

頒布価格は1枚1,500円（送料込）



で、お申込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、スクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

また、パラグライディング教本DVD第2弾「テイクオフとランディング」を作成中です。

予定としているメニューは……

- ・機材の取り扱いと準備
- ・フロントライズアップの基本
- ・直線飛行
- ・フロントライズアップ
- ・リバースライズアップ
- ・グランドハンドリング
- ・効果的なライズアップ練習
- ・テイクオフ
- ・8の字旋回からのランディング
- ・場周アプローチランディング
- ・ランディング

ただいま準備を進めていますので、お待ちください。

■JHFステッカーを販売しています

JHFロゴにハンググライダーとパラグライダーの画像を加えたものと、ロゴのみのステッカーの2種類あります(ステッカーデザイン:ボランティア堀江譲氏)。2種類1セットを製造原価とほぼ同額の送料込み500円でお送りします。



ご希望の方は、JHFフライヤー会員No.／お名前／注文セット数／住所／連絡先電話番号／メールアドレスを、メール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。入金確認後発送しますので、JHFの口座にお振込みください、50円または80円の郵便切手で金額分をお送りください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「フライヤーサポートデスク」→「登録申請・各種用紙」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外式除細動器(AED)

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件:消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジメーター

パラグライダーキャノピー等のエア漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャーエアロソル

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機(465.1875MHz)。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸し出し。貸出料は1,000円/台。申込条件:ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために新たに導入しました。ご利用ください。国際航空連盟(FAI)もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

■住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のための会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ています。コンビニから送金の場合は、払込票

に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

■各種お申込みやお問合せは

JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015

東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889

FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

<http://jhf.hangpara.or.jp/>

*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、静岡県在住の方には静岡県フライヤー連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

JHFレポート201号

発行日:2013年(平成25年)4月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社美巧社